

空間 $B_{p,\mu}(R^N)$ における跡作用素について

広島大 総合科 板野 暢之

$\mathcal{H}_{(m)}(R^N)$ はユークリッド空間 R^N での緩増加超関数 $u \in \mathcal{S}'(R^N)$ で、その Fourier 変換 \hat{u} が局所可積分関数、かつ

$$\int_{R^N} |\hat{u}(\xi)|^2 (1+|\xi|^2)^m d\xi < \infty$$

となる u 全体の作る空間である。これは temperate weight function μ として $(1+|\xi|^2)^{m/2}$ とした場合の空間 $H^m(R^N)$ である。 $\mathcal{H}_{(m,\delta)}(R^N)$ も $H^m(R^N)$ の特殊な場合であり、これは偏微分方程式論でよく使われてくる基礎空間である。

$m > \frac{1}{2}$, $l \leq m - \frac{1}{2}$ より小さい最大整数とすると、写像

$$\mathcal{H}_{(m)}(R^N) \ni u \rightarrow (u(x;0), \dots, \frac{\partial^l}{\partial x_N^l} u(x;0)) \in \prod_{j=0}^l \mathcal{H}_{(m-j-\frac{1}{2})}(R^{N-1})$$

は epimorphism であることが知られている。

== 2 == は、空間 $B_{p,\mu}(R^N)$ ($B_{2,\mu}(R^N) = H^m(R^N)$) において跡作用素を中心として研究し、超関数の乗法積, section との関係が明らかになった。とくに上記に対応する trace mapping が, apimorphism となる簡単な十分条件を求めた。

R^N とその共役空間 R^N の任意の点 $x = (x_1, \dots, x_N)$, $\xi = (\xi_1, \dots, \xi_N)$

とし、そのスカラー積を $\langle x, \xi \rangle = \sum x_j \xi_j$, x の長さ $|x| = (\sum x_j^2)^{1/2}$ とする。微分演算子 $D_j = \frac{1}{i} \frac{\partial}{\partial x_j}$ に對し $D = (D_1, \dots, D_N)$ とおき、多項式 $P(\xi) = \sum a_\alpha \xi^\alpha$ に對して $P(D) = \sum a_\alpha D^\alpha$, $\bar{P}(\xi) = \sum \bar{a}_\alpha \xi^\alpha$, $\tilde{P}_p(\xi) = \left\{ \sum_{|\alpha| \geq 0} |P^{(\alpha)}(\xi)|^p \right\}^{1/p}$ とおく。 $p \geq 1$ のとき $P^{(\alpha)}(\xi) = i^{|\alpha|} D^\alpha P(\xi)$ である。

$\mathcal{S}(\mathbb{R}^N)$ の任意の元 ϕ に對し、その Fourier 変換を

$$\hat{\phi}(\xi) = \int_{\mathbb{R}^N} \phi(x) e^{-i\langle x, \xi \rangle} dx$$

とし、 $u \in \mathcal{S}'(\mathbb{R}^N)$ の Fourier 変換は

$$\langle \hat{u}, \phi \rangle = \langle u, \hat{\phi} \rangle, \quad \phi \in \mathcal{S}(\mathbb{R}^N)$$

と定義する。

\mathbb{Z}^N 上で定義された正值連続関数 $\mu(\xi)$ が

$$\mu(\xi + \eta) \leq C(1 + |\xi|)^k \mu(\eta), \quad \xi, \eta \in \mathbb{Z}^N$$

をみたす定数 C, k が存在するとき、 μ は temperate weight function と呼ばれる。 μ_1, μ_2 が temperate weight function ならば、 $\mu_1 + \mu_2, \mu_1 \mu_2, 1/\mu_1$ は μ 型の temperate weight function である。 $C_1 \leq \mu_1/\mu_2 \leq C_2$ なる定数 C_1, C_2 が存在するとき、 μ_1, μ_2 は同値と見做し $\mu_1 \sim \mu_2$ と記す。

$1 \leq p \leq \infty$ とし、 μ は temperate weight function とする。 $u \in \mathcal{S}'(\mathbb{R}^N)$ で $\hat{u}(\xi)$ が局所可積分関数、かつ

$$\|u\|_{p, \mu} = \left(\frac{1}{(2\pi)^N} \int |\hat{u}(\xi) \mu(\xi)|^p d\xi \right)^{1/p} < \infty$$

となる u 全体の作る空間を $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^N)$ とする。 $p = \infty$ のとき

3, $\|u\|_{p,\infty}$ は $\text{ess. sup} |\hat{u}(z)\mu(z)|$ とする. $p=2$ のときは $B_{2,\mu}(\mathbb{R}^N)$

は $H^m(\mathbb{R}^N)$ と一致する. これらの空間の性質は, L. Hörmander,

L. R. Volevič - B. P. Panejah によって述べられている.

$B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N)$ は Banach 空間で $\mathcal{S}'(\mathbb{R}^N) \subset B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N) \subset \mathcal{S}'(\mathbb{R}^N)$ であり,

$p < \infty$ の場合 $\mathcal{D}(\mathbb{R}^N)$ が $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N)$ で稠密で, $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N)$ の

strong dual $(B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N))'$ は $B_{p',1/\mu}(\mathbb{R}^N)$ ($\frac{1}{p} + \frac{1}{p'} = 1$) である

3. 以下 $1 < p < \infty$ とする.

$u \in B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N)$, $w \in B_{p',1/\mu}(\mathbb{R}^N)$ に対して

$$\langle w, \bar{u} \rangle = \frac{1}{(2\pi)^N} \int_{\mathbb{R}^N} \hat{w} \bar{\hat{u}} d\mathbb{Z}$$

$N = n+m$ とし, $\mathbb{Z} = (z', z)$, $\mathbb{Z}' = (z_1, \dots, z_n)$, $\mathbb{Z} = (z_1, \dots, z_m)$, $\mathbb{Z} =$

(z', z) , $\mathbb{Z}' = (z_1, \dots, z_n)$, $\mathbb{Z} = (z_1, \dots, z_m)$, $\mathbb{Z} \neq \mathbb{Z}'$ $D^{\alpha} = D_{z'}^{\alpha'} D_z^{\alpha''}$ と記す.

Volevič - Panejah は μ が \mathbb{Z}^{n+m} 上の temperate weight function である

3 $\int_{\mathbb{Z}^m} \mu(z', z) dz$ は \mathbb{Z}^n の任意の点 \mathbb{Z}' で発散するか, $\mathbb{Z} =$

は任意の点 \mathbb{Z}' で収束するか, 1) どちらかであり, 4) 収束する

場合は, \mathbb{Z}^n 上の temperate weight function である. 3 と記す

(T).

$\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ の任意の元 $u(x)$ に対して $u(x', 0) \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^n)$ と対応

させる写像は連続である. $\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ は $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ で稠密である

3. もし $u \rightarrow u(x', 0)$ が $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ から $\mathcal{D}'(\mathbb{R}^{n+m})$ に連続的に

拡張されるならば, この拡張された写像を trace mapping

と呼び, u のこの写像に於ける像を u の $t=0$ 上の

trace とよみ $u(x', 0)$ と記す。

これは、任意の $\phi \in \mathcal{D}(R^n)$ に対して

$$\phi \otimes \delta \in B_{p, 1/\mu}(R^{n+m})$$

と表現できる。よって、 $B_{p, \mu}(R^n)$ の任意の元 u に対して $\text{trace } u(x', 0)$

が存在するための条件は $1/\mu(x', z) \in L^p(R^n)$ である。

$\mathcal{S}(R^{n+m})$ の任意の元 u に対して

$$u(x', 0) = \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \iint \widehat{u}(z', z) e^{i(x', z')} dz' dz = \frac{1}{(2\pi)^n} \int \widehat{u}_x(x', z) dz$$

より

$$\widehat{u(x', 0)} = \frac{1}{(2\pi)^n} \int_{\Xi^n} \widehat{u}(z', z) dz \quad \text{を得る。} \quad \text{可積分式}$$

$P(z)$ に対して $\widetilde{P}_p(z)$ は $-\infty$ の temperate weight function である

よって

定理 1. $P(z) = P(z', z)$ は non-trivial polynomial, $\mu \in \Xi^{n+m}$ 上

の temperate weight function とする。 $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ の各元 u に対して

R^n 上の trace $P(D)u(x', 0)$ が存在するための条件は、次

の条件 (1), (2) の一つだけか成立する。とである。

$$(1) \quad \Xi^n \text{ のある点 } z' \text{ に対して } \frac{1}{M_{\widetilde{P}_p, \mu}(z')} = \left\{ \int_{\Xi^n} \frac{\widetilde{P}_p(z', z)}{\mu(z', z)} dz \right\}^{1/p'} < \infty.$$

$$(2) \quad \Xi^n \text{ の任意の点 } z' \text{ に対して } \int_{\Xi^n} \frac{|P(z', z)|^{p'}}{\mu(z', z)} dz < \infty.$$

よって、 $P(D)u(x', 0) \in B_{p, M_{\widetilde{P}_p, \mu}}(R^n)$ である。

$B_{p, \mu}(R^{n+m})$ のすべての元 u に対して $P(D)u(x', 0) \in B_{p, \mu}(R^n)$

が存在するための条件は、次の条件 (1)', (2)' の一つだけである。

(1) $\nu(z) \in C, \mu_{p,p}(z)$.

(2) $\nu(z) \int_{\mathbb{R}^n} \frac{|P(z; z)|^p}{\mu^p(z; z)} dz \leq C_2.$

証. $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ の各元 u が $\text{trace } P(D)u(x,0)$ なる τ と仮定する.

任意の $\eta \in \mathbb{R}^{n+m}$ に対し 写像 $u \rightarrow e^{i\langle x, \eta \rangle} u$ は $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ から $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ へ連続, かつ $P(D)e^{i\langle x, \eta \rangle} u = e^{i\langle x, \eta \rangle} P(D+\eta)$ なる任意の $\phi \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^n)$ に対し

$$B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m}) \ni u \rightarrow \langle P(D+\eta)u(x,0), \phi \rangle = \langle u, \bar{P}(D+\eta)(\phi \otimes \delta) \rangle$$

は $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ 上の continuous linear functional, 即ち

$$\bar{P}(D+\eta)(\phi \otimes \delta) \in B_{p',1/\mu}(\mathbb{R}^{n+m}), \quad \phi \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^n).$$

従って $\bar{P}(z+\eta)\hat{\phi}(z)/\mu(z) = \hat{\phi}(z) \sum_{|\alpha| \geq 0} \frac{\eta^\alpha}{\alpha!} \bar{P}^{(\alpha)}(z)/\mu(z) \in L^p(\mathbb{R}^{n+m}).$

$\{\eta^\alpha\}$ は一次独立だから, 各 α に対し $\hat{\phi}(z)\bar{P}^{(\alpha)}(z)/\mu(z) \in L^p(\mathbb{R}^{n+m})$. 故に \mathbb{R}^n の a.e. の点 z' で $\int_{\mathbb{R}^m} \frac{\bar{P}_p^p(z; z)}{\mu^p(z; z)} dz < \infty$.

\bar{P}_p, μ は temperate weight function だから, 上の積分は, すべて \mathbb{R}^n の点 $z' \in \mathbb{R}^{n+m}$ で存在し temperate weight function である.

(1) \Rightarrow (2) は明らかであるから (2) を仮定する.

$$\widehat{P(D)u(x,0)}(z) = \frac{1}{(2\pi)^n} \int_{\mathbb{R}^m} P(z)\hat{u}(z) dz, \quad u \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$$

より, 任意の $\phi \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^n)$ に対し

$$\begin{aligned} |\langle P(D)u(x,0), \bar{\phi} \rangle| &= \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \left| \int_{\mathbb{R}^{n+m}} P(z)\hat{u}(z)\bar{\hat{\phi}}(z) dz \right| \\ &\leq \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \left(\int_{\mathbb{R}^n} |\bar{\hat{\phi}}(z)|^p \left(\int_{\mathbb{R}^m} \frac{|P(z)|^p}{\mu^p(z)} dz \right)^{1/p} dz \right)^{1/p} \left(\int_{\mathbb{R}^m} |\hat{u}(z)|^p \mu^p(z) dz \right)^{1/p}. \end{aligned}$$

$P(z) = \sum_{|\alpha| \geq 0} \frac{z^{|\alpha|}}{\alpha!} P^{(\alpha)}(0, z)$ と仮定から $\int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P^{(\alpha)}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz < \infty$. 5.5 に
 $\mu(0, z) \leq C(1+|z|)^k \mu(z)$ より

$$\int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P^{(\alpha)}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz \leq C^{p'}(1+|z|)^{kp'} \int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P^{(\alpha)}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(0, z)} dz.$$

従って $\int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P(z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz$ は \mathbb{Z}^m にかんして緩増加関数である。よ
 $\mathcal{D}(R^{n+m})$ は $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ で稠密だから $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ の任意の元 u
 は trace $P(D)u(x, 0)$ をもつ。

任意 $\mathcal{D}(R^{n+m})$ の任意の元 u に対して

$$\|P(D)u(x, 0)\|_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{m/p'} \|u\|_{p, \mu}$$

を示すことができる。このことから $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ の任意の元 u
 に対して $P(D)u(x, 0)$ は $B_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}}(R^n)$ に属するといえる。
 後半の証明も同様である。

定理 2 $\frac{1}{\mu_{\tilde{p}, p'}(z)} = \int_{\mathbb{Z}^m} \frac{\tilde{P}_p^{(\alpha)}(z, z)}{\mu^{p'}(z, z)} dz \left\{ \frac{1}{\mu^{p'}} < \infty \right.$ とする。実線

$$\mathcal{T}: B_{p, \mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow P(D)u(x, 0) \in B_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}}(R^n)$$

が epimorphism になるための条件は次の条件の 1) がこれである。

(1) \mathcal{T} の range が $B_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}}(R^n)$ の中に含まれる。

(2) $\frac{1}{\mu_{\tilde{p}, p'}(z)} = \int \frac{|P(z, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z, z)} dz \left\{ \frac{1}{\mu^{p'}} \right.$ が temperate weight function になる。

(3) $f(z)$ が \mathbb{Z}^n の局所可積分関数で $f(z)P(z)/\mu(z) \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m})$ なる

よす $f(z) / \mu_{p,p'}(z) \in L^p(\mathbb{Z}^n)$ である。

よす $\nu_{p'}(z) \sim \mu_{p,p'}(z)$ である。

よす定理から $P(z)$ が z のみの多項式の時

$$\frac{1}{\nu_{p'}(z)} = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|P(z)|^{p'}}{\mu_{p,p'}(z)} dz \quad \left\{ \begin{array}{l} 1/p' < \infty \end{array} \right.$$

よすこれは、 $\nu_{p'}$ は \mathbb{Z}^n 上の temperate weight function である、写像 $u \rightarrow P(D_x)u(x,0)$ は $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ から $B_{p,\nu_{p'}}(R^n) \wedge$ の epimorphism である。

$M \in$ non-negative integer とし、 $\int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|z|^{Mp'}}{\mu_{p,p'}(z)} dz < \infty$ とす。

non-negative integer k_j の組 $k = (k_1, \dots, k_m)$ が $|k| \leq M$ とす

$$\frac{1}{\nu_{k,p'}(z)} = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|z|^{k,p'}}{\mu_{p,p'}(z)} dz \quad \left\{ \begin{array}{l} 1/p' \end{array} \right.$$

よす、trace mapping τ :

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \{ D_x^k u(x,0) \}_{|k| \leq M} \in \prod_{|k| \leq M} B_{p,\nu_{k,p'}}(R^n)$$

よす。よす $H' = \prod_{|k| \leq M} B_{p,\nu_{k,p'}}(R^n)$ から $B_{p,1/\mu}(R^{n+m})$

への写像 $\tau = \{ \nu_k \}_{|k| \leq M} \in H'$ に対して

$$\widehat{\tau v}(z) = \sum_{|k| \leq M} \widehat{\nu}_k(z) z^k$$

よす = よす τ は injective である = よすかわかり、次の結果を得る。

定理 3. \mathcal{T} が epimorphism になるための条件は, \mathcal{T} の range が $B_{p', 1/\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ で閉じていることである.

定理 4. $p=2$ のとき, \mathcal{T} が epimorphism になるための条件は 次の条件のうちのいくつかが成り立つことである.

$$(1). \det |X_{Rre}| \geq C \prod_{|k|=M} X_{2k} \quad \mathcal{T} \in \mathcal{L} \quad X_R(\mathcal{Z}) = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{z^k}{\mu^2(\mathcal{Z}; z)} d\mathcal{Z}.$$

$$(2). u \in H^{1/2}(\mathbb{R}^{n+m}) \quad \mathcal{Z}, \quad \hat{u}(\mathcal{Z}) = \sum_{|k|=M} f_k(\mathcal{Z}') z^k \quad \mathcal{Z}' \text{ は } \mathcal{Z} \text{ の } k \text{ に } \partial \mathcal{Z} \text{ して } f_k / \nu_{k,2} \in L^2(\mathbb{Z}^n).$$

$$(3). u \in H^{1/2}(\mathbb{R}^{n+m}) \quad \mathcal{Z}, \quad \hat{u}(\mathcal{Z}) = \sum_{|k|=M} f_k(\mathcal{Z}') z^k \quad \mathcal{Z}' \text{ は } \mathcal{Z} \text{ の } k \text{ に } \partial \mathcal{Z} \text{ して } j=1, 2, \dots, m \text{ に } \partial \mathcal{Z} \text{ して}$$

$$\hat{u}(\mathcal{Z}', z_1, \dots, z_{j-1}, \frac{z_j}{2}, z_{j+1}, \dots, z_m) / \mu(\mathcal{Z}) \in L^2(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

$1 < p < \infty$ なる任意の p に $\partial \mathcal{Z}$ して

定理 5. 次の条件は同値である.

$$(1). u \in B_{p', 1/\mu}(\mathbb{R}^{n+m}), \quad \hat{u}(\mathcal{Z}) = \sum_{|k|=M} f_k(\mathcal{Z}') z^k \quad \mathcal{Z}' \text{ は } \mathcal{Z} \text{ の } k \text{ に } \partial \mathcal{Z} \text{ して } f_k / \nu_{k,p'} \in L^p(\mathbb{Z}^n).$$

$$(2). u \in B_{p', 1/\mu}(\mathbb{R}^{n+m}), \quad \hat{u}(\mathcal{Z}) = \sum_{|k|=M} f_k(\mathcal{Z}') z^k \quad \mathcal{Z}' \text{ は } \mathcal{Z} \text{ の } k \text{ に } \partial \mathcal{Z} \text{ して } j=1, 2, \dots, m \text{ に } \partial \mathcal{Z} \text{ して}$$

$$\hat{u}(\mathcal{Z}', z_1, \dots, z_{j-1}, \frac{z_j}{2}, z_{j+1}, \dots, z_m) / \mu(\mathcal{Z}) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

$$(3). u \in B_{p', 1/\mu}(\mathbb{R}^{n+m}), \quad \hat{u}(\mathcal{Z}) = \sum_{|k|=M} f_k(\mathcal{Z}') z^k \quad \mathcal{Z}' \text{ は } \mathcal{Z} \text{ の } k \text{ に } \partial \mathcal{Z} \text{ して } j=1, 2, \dots, m \text{ に } \partial \mathcal{Z} \text{ して } \hat{u}(\mathcal{Z}', \frac{z_1}{2^{i_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{i_m}}) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

このとき、上記 trace mapping τ は epimorphism である。

証) (1) \Rightarrow (2). (1) より $f_R / \nu_{R, P} \in L^p(\mathbb{Z}^n)$. これは $f_R(z) z^k / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ を意味する. $f_R(z) z^k / 2^k \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ を $k = 0, \dots, 2^m - 1$ まで加えれば $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_1}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ を得る.

(2) \Rightarrow (3). (2) より $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_1}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$. $\exists k$
 $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_1}{2}, \dots, z_m) = \sum_{|k| \leq M} f_R(z) z^k / 2^k$ より $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_1}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$.
 これは τ の逆像であるから (3) を得る。

(3) \Rightarrow (1). (3) より $\hat{u}(z', \frac{z_1}{2^{i_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{i_m}}) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$. i_1, \dots, i_{m-1} を固定して i_m を $0, 1, \dots, M$ と動かすことは (3) より、各 $j = 0, 1, \dots, M$ に対して

$$\sum_{|k_1 + \dots + k_{m-1}| \leq M-j} f_{R, \dots, R_{m-1}}(z') \left(\frac{z_1}{2^{i_1}}\right)^{k_1} \dots \left(\frac{z_{m-1}}{2^{i_{m-1}}}\right)^{k_{m-1}} z_m^j / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

この条件下で $k = 0, \dots, 2^m - 1$ となる k に対して $f_R(z) z^k / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ を得る。よって $f_R / \nu_{R, P} \in L^p(\mathbb{Z}^n)$ を得る。

(3) が成立すると τ の range が $B_{p, 1/\mu}(R^{n+m})$ で閉じていることを示す。 $\vec{v}^j = (v_R^j)_{|R| \leq M} \in H' = \prod B_{p, 1/\mu}(R^n)$ に対して $\tau \vec{v}^j$ が $B_{p, 1/\mu}(R^{n+m})$ で u に収束するとする。即ち

$\sum_{|k| \leq M} \hat{v}_R^j(z') z^k / \mu$ は $L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ で \hat{u} / μ に収束する。 μ は正値連続関数だから $\sum \hat{v}_R^j(z') z^k$ は $L^p_{loc}(\mathbb{Z}^{n+m})$ で \hat{u} に収束する。このことから $\hat{u} = \sum_{|k| \leq M} \hat{v}_R^j(z') z^k$, $\hat{v}_R^j \in L^p_{loc}(\mathbb{Z}^{n+m})$ と書かれる。 (3) より $\hat{u}(z', \frac{z_1}{2^{i_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{i_m}}) / \mu =$

$\sum \hat{v}_k(z') \left(\frac{z_1}{z''}\right)^{k_1} \cdots \left(\frac{z_m}{z''}\right)^{k_m} / \mu \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$. i_1, \dots, i_{m-1} を固定して $i_m = 0, 1, \dots, M$ と動かすと $\epsilon = \epsilon_j$ となり, 各 $j = 0, 1, \dots, M$ に対して

$$\sum_{k_1 + \dots + k_m = M-j} \hat{v}_k(z') \left(\frac{z_1}{z''}\right)^{k_1} \cdots \left(\frac{z_{m-1}}{z''}\right)^{k_{m-1}} z_m^j / \mu \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$$

を得る. ϵ の操作をくりかえすと $\epsilon = \epsilon_k$ となり, $|k| \leq M$ なる k に対して $\hat{v}_k(z') z^k / \mu \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ がわかる. $v_k = \mathcal{F}_k^{-1}(\hat{v}_k(z'))$ と定義すれば $v_k \in B_{p, 1/v_k}(R^n)$ となり u は \mathcal{F}_k の range に属する.

系 μ が \mathbb{Z}^{n+m} 上の temperate weight function として

$$\mu(z', z_1, \dots, z_{j-1}, z_j, z_{j+1}, \dots, z_m) \geq C \mu(z', z), \quad j=1, 2, \dots, m$$

と $C > 0$ が存在すれば, trace mapping \mathcal{T} は epimorphism である.

次に $\prod_{|k| \leq M} B_{p, v_k}(R^n)$ の元を \mathcal{T} で, それを trace にもつ $u \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$ を L. Hörmander の方法で構成する.

定理 6. $\prod_{|k| \leq M} B_{p, v_k}(R^n)$ の任意の元 $\vec{f} = (f_k(z'))_{|k| \leq M}$ とする. χ は $\mathcal{D}(R^n)$ の元で 0-近傍で 1 に等しい任意の関数とする. temperate weight function $\mu(z', z)$ に対して

$$\mu(z', \lambda_R(z')z) \leq \lambda_R^{-\frac{m}{p'}}(z') v_R(z') \bar{\mu}_R(z)$$

\mathbb{Z}^n 上の正値連続関数 λ_k と, \mathbb{Z}^n 上で緩増加の連続関数 $\Xi_k(z)$ が存在するとき,

$$\hat{u}_x(z; t) = \sum_{|k| \leq M} \hat{f}_k(z') \frac{(it)^k}{k!} \psi(\lambda_k(z')t)$$

と仮定し, $u \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$ と $|k| \leq M$ なる各 k に対して

$$D_z^k u(x; 0) = f_k(x') \quad \text{と仮定する.}$$

証)
$$\begin{aligned} \hat{u}(z; t) &= \sum_{|k| \leq M} \frac{(-i)^{|k|}}{k!} \hat{f}_k(z') D_z^k \int_{\mathbb{Z}^m} \psi(\lambda_k t) e^{-i\langle t, z \rangle} dz \\ &= \sum_{|k| \leq M} \frac{(-i)^{|k|}}{k!} \hat{f}_k(z') \frac{1}{\lambda^{|\kappa|+m}} D_z^k \hat{\psi}\left(\frac{z}{\lambda_k}\right) \end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned} \int_{\mathbb{Z}^{n+m}} |\hat{u}|^p dz &\leq C \sum_{|k| \leq M} \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{1}{(k!)^p} |\hat{f}_k(z')|^p \frac{dz'}{\lambda_k^{p(|\kappa|+m)-m}} \int_{\mathbb{Z}^m} |D_z^k \hat{\psi}(z)|^p \mu(z', \lambda_k z) dz \\ &\leq C \sum_{|k| \leq M} \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{1}{(k!)^p} |\hat{f}_k(z')|^p \lambda_k^p(z') dz' \int_{\mathbb{Z}^m} |D_z^k \hat{\psi}(z)|^p |\Xi_k(z)|^p dz \end{aligned}$$

$=$ $=$ $=$ $D_z^k \hat{\psi}(z) \in \mathcal{S}(\mathbb{Z}^m)$, $\Xi_k(z)$ は緩増加関数だから右辺の積分は収束する. u の作り方から $D_z^k u(x; 0) = f_k(x')$ は明らか.

trace mapping と他の概念との関係を調べる.

$u, v \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^N)$ とする. \mathbb{R}^N 上の任意の δ -列 $\{\rho_j\}$ に対し, 超関数的極限 $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * \rho_j)v$ が存在すれば, $=$ の極限は一意的に定まるから, $=$ は u, v の strict sense の乗法積

とよ α $u \cdot v$ とかく. \Rightarrow のとき任意の δ -列 $\{p_j\}$ に對して

$$\lim_{j \rightarrow \infty} u(v * p_j) \text{ 存在する}$$

$$\lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) v = \lim_{j \rightarrow \infty} u(v * p_j) .$$

$\mathcal{D}(R^m)$ の元 ϕ が $\phi \geq 0$, $\int_{R^m} \phi dx = 1$ であるとき,

$$\phi_\varepsilon(x) = \frac{1}{\varepsilon^m} \phi\left(\frac{x}{\varepsilon}\right) \text{ とおき, 上の } \{p_j\} \text{ の代りに } \{\phi_\varepsilon\}_{\varepsilon > 0} \text{ とお$$

きかえたと $\lim_{\varepsilon \rightarrow 0} (u * \phi_\varepsilon) v$ が存在すれば weak sense の積

とよ α $u v$ とかく. \Rightarrow のとき $\{\phi_\varepsilon\}_{\varepsilon > 0}$ は 次の restricted

δ -sequence に對しておきかえられた \Rightarrow とか白石氏に示す

ことができる. Restricted δ -seq. とは $p_j \in \mathcal{D}(R^m)$ として

$$(i) \text{ supp } p_j \rightarrow \{0\} \quad (j \rightarrow \infty)$$

$$(ii) \int p_j dx \rightarrow 1 \quad (j \rightarrow \infty)$$

$$(iii) \int |x|^{|\alpha|} |D^\alpha p_j(x)| dx \leq M_\alpha \quad (M_\alpha \text{ は } \alpha \text{ に関する定数})$$

であるとする.

strict sense の場合も同様に論じられるので weak sense の場合に限って以下の通り. $w \in \mathcal{D}'(R^m)$, $u \in \mathcal{D}'(R^{m+m})$ に對して部

分積 wu は $(1 \otimes w)u$ が存在するとき, \Rightarrow として定義する.

$\delta \in \mathcal{D}'(R^m)$ とする. δu は R^m 上の任意の restricted δ -

seq. $\{p_j\}$ に對して $\lim_{j \rightarrow \infty} (\delta * p_j)u \neq \infty$ は $\lim_{j \rightarrow \infty} \delta(u * p_j)$ と

して定義される. \Rightarrow $\delta * \phi_\varepsilon$ は ε にかんする partial con-

volution である. $\{p_j\}$ は上の \Rightarrow と $\{\phi_\varepsilon(t)\}_{\varepsilon > 0}$ とおきか

えられた.

S. Łojasiewicz は超関数に對し (section) の概念を導入した。
 $u \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^{n+m})$ が \mathbb{R}^n 上に section ε もつとは、超関
 数的極限 $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} u(x', \varepsilon t)$ が存在し、 t に無関係であることであ
 る。これは δu の存在と同値である。事実 u が \mathbb{R}^n 上
 に section ε もつとは、 $\phi(t) \geq 0$, $\int_{\mathbb{R}^m} \phi(t) dt = 1$ なる任意の
 $\phi \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^m)$ に対して、超関数的極限 $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} \langle u, \phi_\varepsilon \rangle$ が存在し、
 ϕ に無関係にきつるものである。 $\langle u, \phi_\varepsilon \rangle \otimes \delta = \delta(u * \phi_\varepsilon)$
 であるから section の存在は δu の存在と同値である。 u の
 section ε α とすると $\alpha = \lim_{\varepsilon \downarrow 0} \langle u, \phi_\varepsilon \rangle$ であり、
 $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} u(x', \varepsilon t) = \alpha \otimes \delta$, $\delta u = \alpha \otimes \delta$ である。

定理 7. 空間 $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ において次の条件は同値である。

- (1) trace mapping $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m}) \ni u \rightarrow u(x', 0) \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^n)$ が存在する。
- (2) $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ のすべての元 u が section ε もつ。
- (2') 条件 (2) が strict sense である。
- (3) $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ のすべての元 u に対して、 $\delta \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^m)$ との乗
 法積 δu が存在する。
- (3') $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ のすべての元 u に対して $\delta \cdot u$ が存在する。
- (4) $\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ のある δ -列 $\{p_j\}$ に対して $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta$ が
 存在する。
- (5) $\mathcal{D}(\mathbb{R}^m)$ のある δ -列 $\{p_j\}$ に対して $\lim_{j \rightarrow \infty} p_j u$ が存在する。

証) (2), (3) の同値は既に留意した. 同様 (2)', (3)' も同値.
 (3)' \Rightarrow (3), (3) \Rightarrow (4), (5) は定義より明らかだから (1) \Rightarrow (3)', (4) \Rightarrow (1),
 (5) \Rightarrow (1) を証明すればよい.

(1) \Rightarrow (3)'. (1) を仮定すれば任意の $\varphi \in \mathcal{D}(R^n)$ に対し
 $\varphi \otimes \delta \in B_{p, 1/\mu}(R^{n+m})$. $u \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$ とし, $\{p_j\} \in R^{n+m}$ 上の
 任意の δ -列とす. $u * p_j$ は $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ で u に収束する.
 任意の $\varphi \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ に対して等式

$$\langle (u * p_j) \delta, \varphi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle u * p_j, \varphi(x', 0) \otimes \delta \rangle_{B_{p, \mu}, B_{p, 1/\mu}}$$

より $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta$ の存在がわかる. 即ち $\delta \cdot u$ が存在する.

(4) \Rightarrow (1). $\{p_j\} \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ での δ -列とす.

$$B_{p, \mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow (u * p_j) \delta = (u * p_j)(x', 0) \otimes \delta \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

なる写像は, 各 j に対して連続で, 空間 $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ は

barrelled だから写像

$$B_{p, \mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

は連続である. 故に任意の $\varphi \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ に対し

$$\langle \lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta, \varphi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle u, \omega_\varphi \rangle_{B_{p, \mu}, B_{p, 1/\mu}}$$

なる $\omega_\varphi \in B_{p, 1/\mu}(R^{n+m})$ が存在する.

$u = \alpha \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ とすると

$$\langle \alpha \delta, \varphi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle \alpha, \varphi(x', 0) \otimes \delta \rangle = \langle \alpha, \omega_\varphi \rangle.$$

$\mathcal{D}(R^{n+m})$ は $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ で稠密だから $f(x,0) \otimes \delta = \omega_f \in B_{p,1/\mu}(R^{n+m})$.

よって trace mapping が存在する.

(5) \Rightarrow (4). $\{f_j\} \in \mathcal{D}(R^n)$ のある δ -列とする. 写像

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow f_j \cdot u \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

は連続であるから Banach-Steinhaus の定理から, 写像

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \lim_{j \rightarrow \infty} f_j \cdot u \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

は連続になり, 任意の $u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ に対し $\lim_{j \rightarrow \infty} f_j \cdot u = u(x,0) \otimes \delta$

だから, trace mapping の存在を示してやる.

$$1/\mu(x,z) \in L^{p'}(\Sigma^m) \text{ を仮定し, } \frac{1}{\nu_p(x)} = \left\{ \int \frac{1}{\mu^{p'}(z)} dz \right\}^{1/p'} \text{ とおく.}$$

$t_0 \in R^n$ の任意の点, $u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ の元とすると, $\tau_{t_0} u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ で, $(\tau_{t_0} u)^\wedge = e^{i\langle t_0, z \rangle} \hat{u}$ である. 7.2 定理 1 の証明の中でのように

$$\|u(\cdot, t)\|_{p,\nu_p} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{m/p'} \|u\|_{p,\mu}$$

である. $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ の任意の元 u にとると, $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ の中で $u = \lim u_j$ とする $u_j \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ が存在し

$$\|u_j(\cdot, t_0) - u(\cdot, t_0)\|_{p,\nu_p} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{m/p'} \|u_j - u\|_{p,\mu}.$$

この式から $u_j(\cdot, t_0)$ は $B_{p,\nu_p}(R^n)$ で $u(\cdot, t_0)$ に t_0 にかんして一様に収束する = とわかる. $t \rightarrow u_j(\cdot, t)$ は $B_{p,\nu_p}(R^n)$ -valued continuous function だから $u(\cdot, t)$ は t にかんして連

続に $B_{p,\mu}(R^n)$ -valued function $u(t)$ である. \square

定理 8. $1/\mu(0,z) \in L^1(\Sigma^m)$ と仮定すると, $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ のすべ
 ての元は $B_{p,\nu_p}(R^n)$ -valued continuous function $u(t)$ である超関数
 とみなされる. ここで ν_p は $\frac{1}{\nu_p(\cdot)} = \int_{\Sigma^m} \frac{1}{\mu^{\nu_p(\cdot)}(z)} dz$ で定ま
 る Σ^n 上の temperate weight function である.

証) $\mathcal{D}(R^{n+m})$ の任意の元 ϕ に対して

$$\langle u, \phi \rangle = \int_{R^n} \langle u(t), \phi(\cdot, t) \rangle dt$$

と置く.

$u(t) = u(x, t) \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ にとると $\langle u, \phi \rangle = \langle u, \phi \rangle_{\mathcal{D}, \mathcal{D}}$.

$\mathcal{D}(R^{n+m})$ は $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ で稠密であるから, \square の関係は $B_{p,\mu}(R^n)$
 の任意の元 u に対して成立する.

引用文献

- [1] L. Hörmander, Linear partial differential operators, Springer, (1963).
- [2] M. Itano, On a trace theorem for the space $H^{\mu}(R^N)$, J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. A-I, 30(1966), 11-29.
- [3] M. Itano, Note on the canonical extensions and the boundary

values for distributions in the space H^{μ} , Hiroshima Math.

J. 1(1971), 405-425.

- [4] B. P. Panejah, Theorems on traces and on the extension of distributions, Mat. Zametki 2(1967), 577-588.
- [5] R. Shiraishi, On the value of distributions at a point and the multiplicative products, J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. A-I, 31(1967), 89-104.
- [6] L. R. Volevič and B. P. Panejah, Some spaces of generalized functions and embedding theorems, Uspehi Mat. Nauk, 121 (1965), 3-74.